

清水高原(きよみずこうげん)歳時記(長野県道完走編)

≪長野県山形村≫(やまがたむら)

第26集 (長野県道 1 号線～508 号線)

残りの県道は? 79 <1~100>(3)64・96・97<101~200>(11)109・121・122・143・153・
156・157・158・166・169・186<201~300>(15)202・208・210・223・224・233・234・
236・237・243・247・250・251・252・273<301~400>(17)324・325・335・343・351・
352・360・366・368・370・371・372・375・377・378・384・392<401~508>(33)401・
402・406・411・414・417・418・419・421・430・431・435・437・438・441・443・
452・454・455・456・465・474・480・481・483・491・492・494・498・499・501・
503・504・

NO.176 冠着山(姨捨山)から聖高原

(長野県道 494 号走破) (長野県道 498 号走破) (長野県道 501 号走破)

NO.177 国道 403 号線沿いの小布施から須坂までの県道を走る

(長野県道 343 号走破) (長野県道 352 号走破) (長野県道 499 号走破)

NO.178 旧北御牧村(東御市)近辺を走る

(長野県道 166 号走破) (長野県道 169 号走破) (長野県道 483 号号走破)

NO.179 槍ヶ岳に降った雪はどこに・日本海と太平洋の分水嶺

(長野県道 431 号線走破)

NO.180 伊那駅から権兵衛街道を西に

(長野県道 202 号走破) (長野県道 208 号走破) (長野県道 443 号走破)

NO.181 冬の野尻湖を県道に沿って大回りしました

(長野県道/新潟県道 96 号走破) (県道 360 号走破) (長野県道/新潟県道 504 号走破)

NO.182 ダニー・ボーイのジャズボーカルを聞いて

《長野県山形村》(やまがたむら) 2025.12.24

NO 道176

冠着山（姨捨山）から聖高原

澤田 繁 著

(長野県道 494 号走破) (長野県道 498 号走破) (長野県道 501 号走破)

2020.8.22、千曲市の娘の家に寄り、戸倉上山田温泉に向かった。千曲川左岸の上山田温泉内の県道 498 号線の上山田文化会館前交差点に到着した。県道 498 号線（聖高原千曲線）の始点である国道 18 号線の戸倉上山田温泉入口交差点からは、直線で 700m 程の位置である。上山田文化会館交差点を右折し南に進むと、県道 55 号線との交点を突っ切り、山道に入った。下からよく見える建物（善光寺別院城泉山観音寺）の前を通り、更に少し登った所に「**荒砥城跡**」の案内看板があり、少し入った所に駐車場があった。車を止め入場料を払い山城を散策した。『荒砥城は、当地一帯を治めていた地方豪族“村上氏”の支族にあたる“山田氏”により、大永 4 年(1524)に築城されたと伝えられています。冠着山から千曲川へ向かって伸びる**舌状尾根**の突端部にあり、戦略上重要な位置に築かれています。現在城山城址公園として、平成 2 年度から 5 年間の歳月を費やし、平成 7 年 6 月にオープンしました。当時の山城の雰囲気を感じていただくことができ、また、ふもとの戸倉上山田温泉から僅か数分という最良の立地条件もあり、県内外から多くの観光客が来られる施設となりました。荒砥城の本郭は標高 590 メートルで、千曲川から比較するとおおよそ 220 メートルの比高差があります。公園内にある櫓に登ればとても眺めが良く、眼下には千曲川の雄大な流れと、南は埴科郡坂城町から上田市北部付近、北は長野市の南部まで広く見渡せます。』と千曲市の説明にあった。

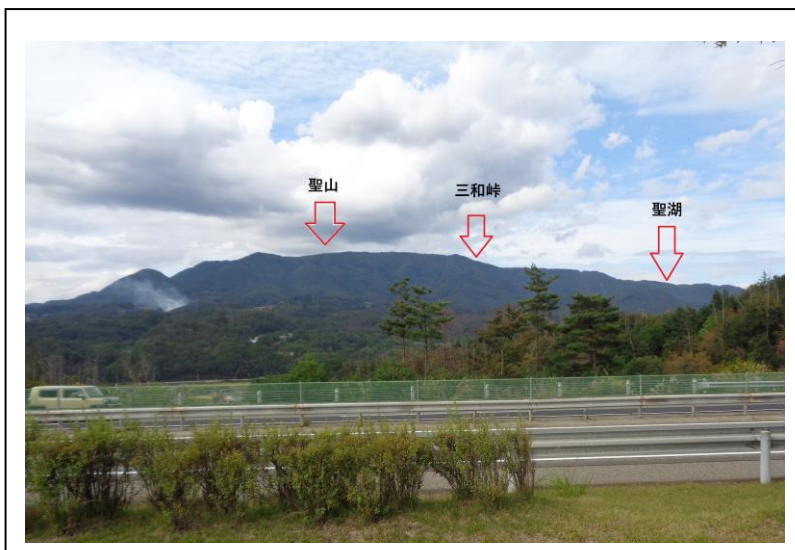


県道 498 号線に戻り先に行く、尾根の近くの 1 車線の道が続き徐々に高度が上がって行く、道の脇には、木が茂っていて下の景色は見られなかった。この山道、県道 340 号線の千曲川に架かる平和橋から見た、おぼすて姨捨山（正式名はかむりき冠着山）の稜線に沿って登っている。冠着山の登山口の駐車場まで進み、少し休憩した。冠着山（1252m）への登山は、登山口より上り 40 分下り 30 分のコースである。姨捨山には、姨捨伝説があ

り、ぶきみなどところがあるが、棚田と名月の景色も歌によく読まれている。駐車場を出発した後は、徐々に標高を下げて行く尾根近くの道であった。駐車場から 3km 程行った所で、冠着駅から上がって来る県道 494 号線と交わり、更に進むと篠ノ井線の「冠着トンネル」と長野道の「一本松トンネル」の真上付近の一本松峠（標高 900m 程）を通り、別荘地が広がる地域に出て、ようやく**聖湖**（標高 960m）が見え、終着の国道 403 号線と交わった（県道 498 号線走破）。



国道 403 号線を 70m 程行くと、県道 501 号線（路線認定されていないため、グーグル等には表示が出ない）の始点があり、左折して県道 501 号線（聖高原瀬口線）に入りました。すぐに登りの道が始まり、標高



1200m 程の三和峠^{みわ}まで登って行く、この峠麻績村と千曲市桑原地区との境でもあり、又眺望がすばらしい**聖山**への登山口の一つでもある。ちなみに聖山（標高 1447m）までは聖峠経由して約 1 時間で登れる。写真は長野道の松本方面の筑北 PA からの写真です。ごんげん池付近までは、標高も 1200m 近くをキープして、ここら辺から徐々に下って行く。途中の中牧湖からは、**旧大岡村**に入っており終点まで旧大岡村を走る。終点の県道 12 号線との交点（大岡甲字瀬口）では標高が 860m となっている

（県道 501 号線走破）。この日は、大岡支所付近から市道を通り 19 号線の平ダムに降り、山を越え松川村方面に行き、帰宅した。

2022.6.7、麻績インターで降り県道 55 号線を走り**旧坂井村**（現筑北村）に入り、旧坂井村の中心地を抜けた所の交差点（JR 冠着駅への案内あり）を左折し、県道 494 号線（聖高原杉崎線）に入る。1km 程行った所に「**冠着駅**」があった。この駅は、親に連れられ、松本から蒸気機関車の汽車に乗り、駅通過したら「汽笛」が鳴ったらトンネルに入るの、窓を閉めて煙が入らないようにしなければならなかった場所であった事で、子供の頃の記憶に、今でもある駅である。駅の標高は 700m、ここから山道を登る、結構せまいが耕作地があった。県道 494 号線の終点は、県道 498 号線との交点の東山道支道の古峠（標高約 920m）付近まであり、少し驚いた（県道 494 号線走破）。この後右折し県



道 498 号線で戸倉上山田温泉入口交差点まで行き、国道 18 号線で「さかきのバラ」等を見に行き、上田佐久方面に足延ばし、三才山トンネルを通り帰宅した。

歳時記ホームはこちら <http://www.go.tvn.ne.jp/~sawada/saijiki/saijikihome.htm>

《長野県山形村》(やまがたむら) 2026.1.8

国道403号線沿いの小布施から須坂までの県道を走る

澤田 繁 著

(長野県道343号走破)(長野県道352号走破)(長野県道499号走破)

2026.1.8、午後に家を出て、孫の成人式のお祝いにと、千曲市のケーキ屋さんに予約に行きました。長野道の姨捨に出る一本松トンネルで雪かき渋滞に出会いました。姨捨スマートインターで降り雪道を下ると下の道路には雪がなくなりました。県道340号線を通り、国道18号線方面に向かい、途中離れた所の「リングの木」で予約をしました。時間が少しあったので、2日前に行きたかった小布施駅に向かいました。

更埴インターから高速に乗り、2日前にアバター映画(IMAXシアター・アバターファイヤアンドアッシュ)を見た「須坂イオンモールの映画館」を見ながら須坂長野東インターを過ぎ、村山橋(国道406号線)が見え、国道406号線を通り、高速道は、前集(第25集)のNO.174で書いた県道347号線につづく県道343号



線(村山小布施停車場線)に沿って進む。県道343号線は、2022.2.15、須坂長野東インターから県道347号線を通り、村山町交差点を直進して県道343号線に入り、村山地区(旧日野村)、相之島地区(旧豊洲村)、小島(旧豊洲村)を通り、松川を渡り小布施町に入り、大島地区にある小布施スマートインター横に到達した。2026.1.8、小布施サービスエリアからハイウェイオアシスに入り、駐車場に車を止めた。この先に大きな公園があり、孫が小さい

時によく池まで行って遊んだ。小布施スマートインターから出て県道343号線に入り、高速道に沿って北上し、飯田・山王島・押羽地区を通り、深沢川橋交差点を右折し、高速道路とは離れ、1954年まで都住村であった地区に入り、国道403号線まで進み、ここから403号線と重複しており南下をした。長野電鉄長野線の高架を過ぎて、小布施の町中に入り、県道343号を使い小布施駅に行こうとしたが、右折する交差点が分らず通り過ぎてしまいました。松川橋北交差点まで行きUターンをして慎重に



交差点を探し、中町東交差点を曲がってみました。どうやら当たったみたいで曲がってすぐ右折し更に左折したら「小布施駅」に着いた（県道 343 号線走破）。駅舎の北側には、長野電鉄の列車が展示されていた。

小布施駅を出発して、国道 403 号線に出て、須坂方面に向かった。松川を渡り、1.5km 程行った旭ヶ丘交差点を右折して**県道 499 号線**（相之島高山線）に入った。県道 499 号線の起点である高山村役場近くの県道 54 号線との交点から旭ヶ丘交差点までは、**2022.10.18**、松川溪谷の紅葉を見に



行った帰りに、県道 66 号線から 54 号線に入り、高山村（昭和 31 年に高井村と山田村が合併）役場が見えた所の交差点を右折し（**県道 499 号起点**）西に向かって緩やかに下って行った。高山村高井地区をほぼ松川に沿って下って行き、須坂市日滝地区に入ると松川とは離れ、果物畑の中を通過して国

道 403 号線の旭ヶ丘交差点まで進んだ、ここから長野電鉄線までは**旭ヶ丘の住宅街**の中を通り、須坂市小島地区に入り、県道 443 号線との交点に出る（**県道 499 号線走破**）。右折して上信越道の真下をくぐり 400m 程小布施方面に行くと、**県道 352 号線**（新田春木線）との交点に到達し右折して県道 352 号線に入る。**豊島の住宅地**が新田町北交差点近くまで広がっており、県道 352 号線も新田町北交差点から右折して南下をする。小布施からの谷街道の脇街道がこの 352 号線の南下ルートにとところどころ見られ、街道筋の古い建物も残っていた。南下ルートのほとんどが須坂市小河原地区をはしり、須坂建設事務所東交差点で左折し 400m 程で国道 403 号線に出る。国道 403 号線の**馬場町東交差点**が県道 352 号線の終点となる（**県道 352 号線走破**）。

2026.1.8、旭ヶ丘交差点を右折し、県道 499 号線を走り、県道 343 号線に出て右折し小布施方面に行き、県道 352 号線に入るつもりが、一つ前に入ってしまった、県道 499 号線に戻ってしまいました。新田町交差点で県道 352 号線に入り、須坂を目指した。今日のお目当てはホリエモンで有名になった**須坂の刑務所**を、興味を持って見て見たい事なので、うまく写真を撮れたらいいなと思いましたが、玄関前でなんとか写したが、全容はわからないので、グーグルに頼りました（右写真）。

長野刑務所は、明治 4 年、信濃の国善光寺領箱清水に徒刑場が設置されたことが当所の起源であり、その後、長野県監獄本署、長野監獄と改称し、大正 11 年、長野刑務所と改称後、昭和 35 年 4 月、現在地に移転し今日に至っています。収容人数は 800 人規模。

この日は、国道 403 号線を通り、須坂長野東インターで帰宅した。

歳時記ホームはこちら <http://www.go.tvn.ne.jp/~sawada/saijiki/saijikihome.htm>

又は澤田繁のホームを検索し、ホーム⇒歳時記



《長野県山形村》(やまがたむら) 2026.1.20

旧北御牧村(東御市)近辺を走る

澤田 繁 著

(長野県道 166 号走破) (長野県道 169 号走破) (長野県道 483 号線走破)

2026.1.20、自宅を出て、松本の兄の家に寄り、昼食を浅間温泉に近い「カフェレストガレージ」でとり、三才山トンネルから丸子に向かった。2006 年まで丸子町であった御岳堂地区に入り県道 82 号線を北上し県道 169 号(南原長瀬線)との三差路に着き、1995 年までは、御岳堂と生田で構成された依田村の生田地区に入った。三差路を右折して依田川を渡り国道 152 号線の長瀬交差点に着き(県道 169 号線走破)、左折して国道 152 号線を北上し、大屋駅で車を止めて小休止をした。

大屋駅を起点とした県道 438 号線(大屋停車場田沢線)を走る。まずは、北国街道を通り、しなの鉄道の踏切を渡り国道 18 号線に出て、200m 程重複し



て走り左折して、旧和村に入る。国道 18 号線(千曲川沿い)から県道 4 号線までは、なだらかな耕作地が広がっており、徐々に登り県道 79 号線との交点まで走り、石碑があったの



で車を止めて写真を撮った。土地改良(農業にとって基本となる土地と水の利用化を図るためのもの)の碑のようで、水田も見える。和地区はぶどう畑が目につき、水田は目立つ程なかった。さらに登って行くと、

「和学校記念館」に向かう交差点に着いた。県道 483 号線はこの信号から田沢の信号まで伸びているが、2021.1.26 に走っており、今日は右折して和学校を再度訪れました(県道 483 号線走破)。和学校から少し戻り市道を下って行き、海善寺地区を通り、国道 18 号線まで下って来た。国道 18 号線の海野宿入口交差点を

田中交差点からは、商店街に入り、400m 程で田中駅に着いた。車を止めて写真を撮ったりした。田中駅舎入口には、「全国の**田中**さん大歓迎」と「田中駅開業130 周年記念」の看板が立てられていた。駅名と苗字、少し気になって調べてみたら、沢田駅：**沢田駅**（さわだえき）は、宮城県石巻市沢田字沢田にある、東日本旅客鉄道（JR 東日本）石巻線の駅と出て来

旧望月町に入っても、県道 166 号線は、鹿曲川に沿って走っており、進んで鹿曲川を渡ると、中山道の望月宿に入りました。前に来た時見学した「望月歴史民俗資料館」前に車を止めて、近くの脇本陣跡をバックに写真を撮って出発した。県道 166 号線は、中山道でもある宿場の通りを走り、望月宿入口交差点近くで中



山道は県道とはなれ、鹿曲川を渡り、瓜生坂を越えて佐久平につながっている。県道 166 号線も中山道



に沿って鹿曲川を渡り、坂を登りトンネルを越えて国道 142 号線に到達した（県道 166 号線走破）。

国道 142 号線を佐久方面に進み、道の駅ヘルシーテラス佐久南で休憩し、佐久南インターから高速に乗って帰宅の途についた。

【付録 1】十六牧

大室牧（水内郡/現在の長野市松代町大室＜大室まきばの湯＞）・笠原牧（高井郡/現在の中野市笠原地区）・高井牧（高井郡/現在高山村牧地区＜県道 112 号線＞）・新張牧（小県郡/現在東御市新張地区＜県道 94 号線＞）・塩原牧（小県郡/現在の青木村から上田市浦野地区＜旧浦里村＞）・望月牧（佐久郡/千曲川と鹿曲川に挟まれた御牧ヶ原台地＜県道 423 号線＞）・長倉牧（佐久郡/現在の軽井沢町長倉＜長倉牧遺跡＞）・塩野牧（佐久郡/現在の御代田町塩野地区＜県道 80 号線＞）・猪鹿牧（安曇郡/現在の穂高牧地区＜国営アルプス公園・県道 25 号線＞）・埴原牧（筑摩郡/現在の松本市中山から内田地区＜県道 63 号線＞）・大野牧（筑摩郡/現在の松本市波田・和田・梓川地区・山形村＜県道 25 号線＞）・岡屋牧（諏訪郡/現在の岡谷市と思われる）・山鹿牧（諏訪郡）・萩倉牧（諏訪郡）・平井手牧（伊那郡）・宮処牧（伊那郡）

【付録 2】鹿曲川（かくまがわ） 延長 27.5km

八ヶ岳連峰の最北「蓼科山」の南東にある大河原峠を源とし、東御市島川原で千曲川に合流する。

歳時記ホームはこちら <http://www.go.tvn.ne.jp/~sawada/saijiki/saijikihome.htm>

又は澤田繁のホームを検索し、ホーム⇒歳時記



《長野県山形村》(やまがたむら) 2026.1.27

槍ヶ岳に降った雪はどこに・日本海と太平洋の分水嶺

澤田 繁 著

(県道 431 号線走破)

槍ヶ岳に降った雪はどこにいくのか気になって調べて見ました。槍ヶ岳の稜線から 4 つの面に分かれている。A 面は、登山道でもある飛騨沢(薄緑)に流れ、浦田川(桃)に合流する。新穂高のロープウェイから岐阜県道 475 号線(槍ヶ岳公園線)に沿って奥飛騨温泉栃尾温泉まで下り、国道 471 号線に変わり、川も高原川になる。神岡町で国道 41 号線に引き継がれ、富山市と飛騨市の境の猪谷で宮川と合流し神通川となり、**富山湾**(日本海)に注ぐ。

B 面は、学生の時登ったルートである(県道 279 号線:登山道)槍沢(薄緑)から梓川に流れ、上高地に経て釜トンネルまでは、県道 24 号線(自家用車規制中)に沿って下り、釜トンネルから国道 158 号線に沿って下り、松本城山の下で奈良井川と合流し犀川となる。犀川は国道 19 号線に沿っており、明科では高瀬川(C・D 面の下流)と合流し、長野市綿内で千曲川に合流し千曲川となり、国道 117 号線に沿って、須坂市・小布施町・中野市・飯山市を通り、栄村の県境から信濃川となり、新潟県内を通り、新潟市の**新潟港**から日本海に流れる。

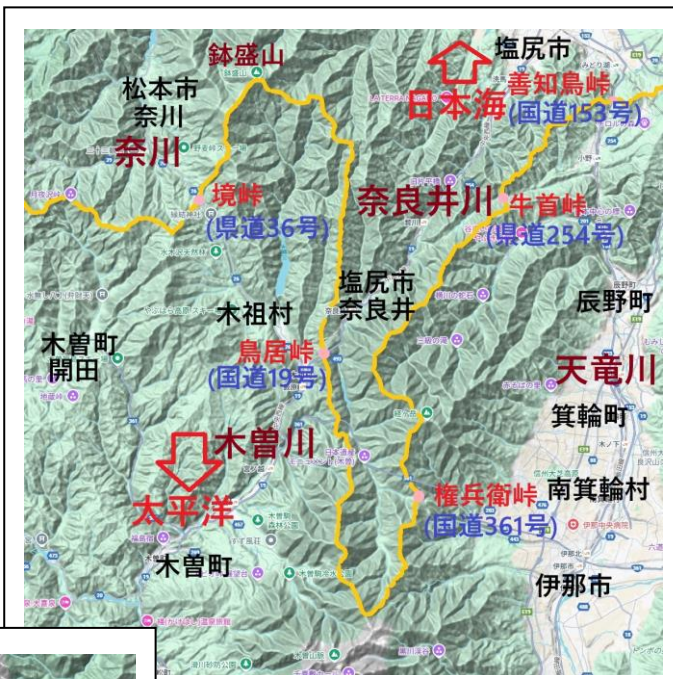


C・D 面は、槍ヶ岳の北側に降った雪になり、C 面の間ノ沢(薄緑)から天上沢(桃)に合流し、D 面の千丈沢(薄緑)と更に合流し水俣川となる。高瀬ダムに注ぎ高瀬川となり県道 326 号線に沿って、大町市街に入り、県道 306 号線の堤防道路(オリンピック道路)に沿って南下し明科で犀川と合流する。

日本海と太平洋への分水嶺として、身近に善知鳥峠がある。塩尻から国道 153 号線を走ると中山道塩尻宿の中を通り、伊那方面に向かう。善知鳥峠までは、かつて、カーブの多い悪路であったが今は改良されあつと言う間に善知鳥峠に到達する。県道 431 号線(上西条大門線)は、起点がデンカ生コン付近(国道 153 号交点)で終点が塩尻市大門三番町(県道 305 号線交点)とあるが、未だに区域決定の告示にされていないので、まずは生コンの場所を探したが、それらしき物は、善知鳥峠のすぐ下にあったが確信はない、そこから三番町までの道は 3 か所くらい想定できた、有力なのが三州街道と中山道を通る道で、もう一つは山沿いを走る、かつて国道が混む時の抜け道である。いずれも走っているが(県道 431 号線走破)、県道からははずれそう。



善知鳥峠から西の分水嶺は、中央アルプスの北端から県道 254 号線の牛首峠を経て、国道 361 号線の権兵衛トンネル上の権兵衛峠、10km 南から中央アルプスを離れ、国道 19 号線の鳥居トンネル上の鳥居峠を経て鉢盛山に達し、県道 36 号線の境峠を経て北アルプスの稜線に達する。長野県と岐阜県境の北アルプスを北上し、長野県道/岐阜県道 39 号線の野麦峠を経て、乗鞍岳に達し、県境を離れ西に向かい、高山市南の国道 41 号線近くの宮峠に達する。乗鞍岳の南斜面からは飛騨川を経て、美濃川合で木曽川と合流する。乗鞍岳西斜面からは、小八賀川を経て宮川と合流し、神岡町で高原川と合流し神通川となり日本海に注ぐ。乗鞍岳東斜面からは、沢を通



り梓川と合流し、松本市島内で奈良井川と合流し犀川、その後千曲川～信濃川となり日本海に注ぐ。

善知鳥峠から東側は、塩尻峠（国道 20 号線）から、私の自宅からよく見える高ボッチ・鉢伏山の稜線を通り、国道

142 号線の和田トンネル上の和田峠、霧ヶ峰を通り、白樺湖の上の国道 152 号線の大門峠を通り、女神湖に抜ける県道 40 号線上を通り、八ヶ岳連峰の蓼科山に到達する。大河原峠を通り、国道 299 号線の麦草峠を経て八ヶ岳連峰の赤岳に到達する。赤岳の西斜面は、柳川を下り、茅野市玉川小泉で上川と合流する。上川は諏訪湖に流れる。南斜面は、いくつもの谷があるが、西端は、富士見町の立場川に注ぎ、釜無川と合流する。東端は、川俣川に注ぎ、高根町長澤で大門川と合流し須玉川となり、須玉インター付近で塩川と合流する。塩川は、韮崎市龍岡町で釜無川と合流し、釜無川は笛吹川と合流し富士川となり太平洋に注ぐ。赤岳の東側斜面からは、南牧村の柚添川に注ぎ、南牧村海ノロで千曲川と合流し日本海に注ぐ。



赤岳から東の分水嶺は、山梨県との県境の山峰、埼玉県との県境の山峰、群馬県との県境の山峰が続き、群馬県野反湖周辺の分水嶺だけが、長野県が食い込んでいる。その後分水嶺は、長野県と群馬県が白砂山の県境まで進み、新潟県と群馬県の県境の山峰とつづく。

歳時記ホームはこちら

<http://www.go.tvn.ne.jp/~sawada/saijiki/saijikihome.htm>



《長野県山形村》(やまがたむら) 2026.1.27

伊那駅から権兵衛街道を西に

澤田 繁 著

(長野県道 202 号走破) (長野県道 208 号走破) (長野県道 443 号走破)

2026.1.27、家を出て塩尻北インターから高速に乗りましたが、事故渋滞にあい 40 分程止まったままでしたので、予定していた店のお昼の時間(13:30 までにいかない)がせまり、伊那インターで降り、急いで行きました。13時15分に店(たけだ)に着き、「ミニソースかつ丼」を頼みました。ここの豚肉は、SPF 肉(SPF とは「Specific Pathogen Free」の略で、特定の病原体が存在しないことを意味します。SPF 豚は、あらかじめ指定された病気を持たない豚であり、健康な状態で飼育されています。)を使用している。味は、たいへんおいしかった。店までの経路が分らずナビに振り回されましたが、水神橋西交差点の南で国道 153 号線より西の通りであった。食べた後すぐに国道 153 号線に出て伊那駅を目指しました。

国道 153 号線を少し走り、伊那北駅の手前で県道 146 号線に出て、伊那商店街を通り伊那駅前交差点を左折し、県道 208 号線に入り、駅前通りを 50m 進むと飯田線伊那駅に着いた(県道 208 号線走破)。

2022.3.15、に完走した県道 202 号線(伊那駒ヶ根線)を駅前から伊那駅前交差点(県道 202 号線始点)まで行き、そのまま直進して 250m 先の合同庁舎西交差点を左折した。伊那街道を 100m 程走り河岸段丘を登り、健康・・・の建物がある所に着いた。この先は、2022.3.15 に戻り書きます。すぐ春日公園



もあり、長野県伊那文化会館前を通り、しばらく行くと耕作地が広がり始め、さらに扇状地を登って行く。中央道の小黒川スマートインターの横を通り、少し行くと小黒川沿いの道になった。これから車道は終点まで川沿い道になる。荒井内の萱の集落までは、ところどころに集落があったが、ここを過ぎると山道に入り、登山口まで進んだ。ここからは、私はとても登れないが、登山道で木曾駒ヶ岳（約7時間）までの路線である（県道 202 号線走破）。

2026.1.27、健康・・・建物から、伊那市創造館を探しながら駅方面に戻ると、近く創造館は見つけたが駐車場が近くに見つけられなかったので駅前（写真下・真中に見える道が県道 208 号線）まで戻った。駅前に菓子屋（越後屋菓子店）さんを見つけたので、買って食べました。“まゆ”の形をした菓子で、もなかにチョコレートをコーティング、もなかの中は、ホイップクリームで今までにない食感がした。



駅前から再び出発して合同庁舎西交差点を右折して

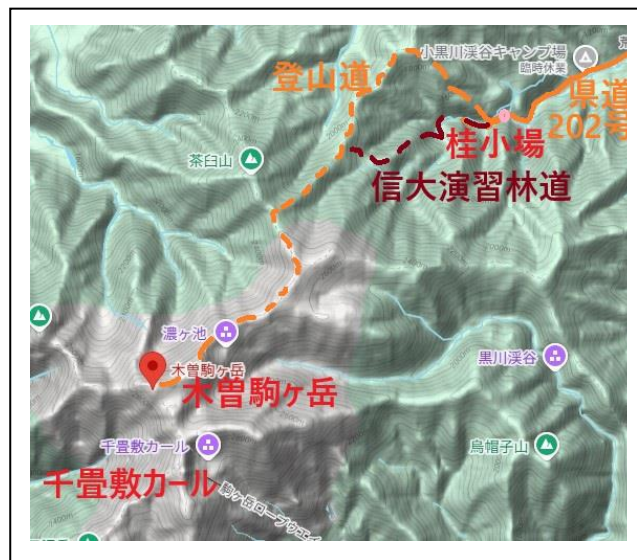
小沢川を渡り国道 361 号線に出た。30m 先を左折すると権兵衛街道に出る。室町交差点までは国道 361 号線と重複しており、その先は国道 361 号線と別れて県道 443 号線（内の萱伊那線：室町交差点～内の萱）が権兵衛街道となる。県道 443 号線は、小沢川に沿って川沿いの街道で、中央道の下をくぐる付近までは人家も多かった。その後、耕作地が目立ち始め、平沢地区に入った所で、権兵衛街道と県道 443 号線は分岐した。権兵衛街道は、さらに小沢川に沿って国道 361 号線の権兵衛トンネル手前まで伸びている。車でどこまでいけるか分からないが、今回は平沢地区から段丘を登り国道 361 号線に出て、奈良井方面にいき国道 19 号線で帰宅した。

県道 443 号線は、平沢地区から小沢川を渡り段丘を登って、丘に出来た横山地区を通り、県道 202 号線の荒井内の萱地区まで南下している。グーグルにも私のナビにも県道 443 号線の表示が現れないので、2022.9.20 に、それらしき道を探しながら走った。途中に「鳩吹公園」があり『約 3 万本のツツジが咲き誇る公園。桜の名所としても知られ、風車型のからくり時計台から南アルプスの景色を展望できる。駐車場完備』とある。横山地区から荒井内の萱地区までは、小黒川に向かって丘から谷に降りる道だった（県道 443 号線走破）。

【付録】権兵衛街道

権兵衛は、神谷（国道 361 号線の国道 19 号線から 4km 程伊那方面に行った所）に生まれた牛方行司（親方）で、伊那谷の米を牛の背に乗せて木曾へ運んで労賃を取って生計をたてていた。元禄のころ峠の開鑿を思い立ち、伊那や木曾の人々を説いて、姥神、鍋懸の二つの峠を越え、木曾町宮ノ越から伊那市坂下までの約 36 キロメートルの道を開いた。元禄 9（1696）年に開通し、以来この街道の開鑿（かいさく）を首唱した権兵衛の名をとって権兵衛街道と言うようになった。

歳時記ホームはこちら <http://www.go.tvm.ne.jp/~sawada/saijiki/saijikihome.htm>



《長野県山形村》(やまがたむら) 2026.2.10

冬の野尻湖を県道に沿って大回りしました

澤田 繁 著

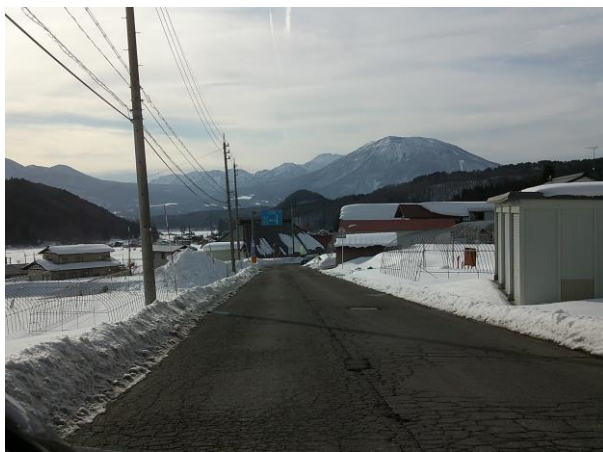
(長野県道/新潟県道 96 号走破)(県道 360 号走破)(長野県道/新潟県道 504 号走破)

2026.2.10、千曲市の娘の家に届け物をしてから更埴インターから高速に乗り、豊田飯山インターで降りました。冬の飯山や黒姫は、若い頃スキーで来た時以来の気がする。インターを降りると、国道 117 号線に出る。右折すると、県道 96 号線の国道 117 号線と重複した部分と北畑南交差点から飯山駅近くの飯山駅南交差点(県道 96 号線の始点)までがあり、**2022.6.14** にこの区間を走っている。インター(標高 460m)から降りて国道 117 号線を突っ切ると県道 96 号線(長野県道 96 号線/新潟県道 96 号線・飯山妙高高原線)に出る。旧豊田村の永江地区の斑川に沿った谷合を登り標高 740m 程に「手打ちそばきたざわ」があり、以前に寄った所だが今はやっていなかった。その後、斑川を離れなだらかな峠(標高 780m)を

越しながら、飯綱町芋川を

少し通り、信濃町荒瀬原の小さな盆地に出た。県道 60 号線との交点近くからの黒姫山がとてもきれいに見えた。富濃地区に入り、90 度曲がり野尻湖に向かった。

野尻湖が見え、県道 96 号線は、湖面より高い所を走り、湖面を見下ろす形になって北上した。菅川集落近





くから湖面近くの道になり、集落を通過し、山道に入った。峠を越えると古海の小さな盆地に出た。途中雪かきをしてきれいに雪面が出た所で写真を撮った。

県道 96 号線は、古海の盆地では、県道 504 号線と重複して走っており、県道 504 号線は、盆地の南側で分岐し斑尾山に向かう。**2021.8.3**、飯山から国道 292 号線で妙高市（新潟県）に行き、戻って県道 97 号線で斑尾高原方面に向かう。斑尾高原手前で、県道 504 号線（長野県道/新潟県道 504 号線・信濃斑尾高原線）の交点に着き、県道 97 号線と別れて県道 504 号線に入り、200m 程走り、万坂峠（標高 900m）で長野県に入りました。ここから県道 96 号線までは標高差 200m 強の下りの道となり、すぐに「ホテルタングラム」の建物が見えた。**2026.2.10**、古海盆地の北側まで進み、県道 96 号線と別れ、県道 504 号線で野尻湖を目指した。この先の県道 96 号線は、**2021.10.12**、上越市（新潟県）に回転すしを食べに行った帰りに、国道 18 号線を通り、妙高市の豊橋交差点（県道 96 号線終点）を左折し、妙高高原駅前を通り、長野県との県境の関川を渡り長野県に入る。しなの鉄道の踏切を渡り、山道になる。浅い谷間の道で 2 車線がほとんどの道であった。旧信濃尻村（熊坂・野尻・古海）の熊坂地区を走り、古海の盆地に出る（県道 96 号線走破）。

2026.2.10、古海盆地から県道 504 号線を使い、高さ 100m 程登る山道を進み、山を越えて同じくらい降りた所に野尻湖（標高 660m くらい）があった。降りた所からは、湖が見える平らな道になり、県道 360 号線に引き継いだ。県道 360 号線の湖畔までは、県道 504 号線と重複し、国道 18 号線の野尻湖交差点（県道 360 号/県道 504 号始点）から 200m の直線の平地の道である（県道 504 号線走破）。県道 360 号線を湖畔に沿って 1.2km 程進むと山道に入りました。山道に入った所からは、野尻湖との間に別荘地などがあり、小山もあり野尻湖は見えない。野尻湖



は、古くは村名の信濃尻湖と呼ばれ、めったに結氷しない湖で、この日も結氷していなかった。旧信濃尻村の野尻地区から旧古間村（古間・富濃・荒瀬原）の富濃地区に戻り、全面結氷している針の木池の横を走り、ほぼ野尻湖を 1 周した。そのまま、県道 360 号線上信越道の上を通り南下し、しなの鉄道北信濃線の古間駅（県道 360 号線終点）に着いた（県道 360 号線走破）。

この日は、この後、信濃町柏原にある大学の友人宅に遊びに行き、1 時間半ほどお茶を飲みながら過ごし、信濃町インターから高速に乗り、更埴インターで降り、千曲市の娘と孫と食事をして帰宅した。

歳時記ホームはこちら <http://www.go.tvm.ne.jp/~sawada/saijiki/saijikihome.htm>

又は澤田繁のホームを検索し、ホーム⇒歳時記

《長野県山形村》(やまがたむら) 2026.2.14

ダニー・ボーイのジャズボーカルを聞いて

澤田 繁 著

2026.2.14、ジャズボーカルのCDが手に入り、カーオーディオで聞きました。その中の1曲にダニー・ボーイがあったので、なんとなく内容が分かりそうなので、歌詞を調べて見ました。

Oh, Danny Boy, the pipes, the pipes are calling, / From glen to glen and down the mountain side.
The summer's gone and all the roses fallin'. / 'Tis you, 'tis you must go and I must bide.

*But come ye back when summer's in the meadow. / Or when the valley's hushed and white with snow.
'Tis I'll be here in sunshine or in shadow. / Oh, Danny Boy, O, Danny Boy, I miss you so.*

pipe:バグパイプ glen:狭い谷 bide:待つ meadow:牧草地 hushed:ハッシュされた miss:寂しがる

But if ye come, when all the flowers are dying, / If I am dead, as dead I well may be.
Ye'll come and find the place where I am lying. / And kneel and say an Ave there for me.

*And I shall hear, tho' soft you tread above me / And all my grave will warmer, sweeter be
For ye shall bend and tell me that you love me / And I shall sleep in peace until you come to me.
Oh Danny boy, oh Danny boy, I love you so. lying:横たわる Ave:平均?*

ダニーボーイは、アイルランドの民謡であり、「ロンドンデリーの歌」として知られる旋律に歌詞を付けたものである。この旋律は「ダニー・ボーイ」のほかにも数多くの歌詞で歌われる。以下探した歌詞訳

おお、ダニー・ボーイ、バグパイプの音が呼んでいる、／谷から谷へ、そして山際まで響き渡る。
夏が終わり、バラはみんな散ってしまった。／おまえは去って行き、私は待ち焦がれる。

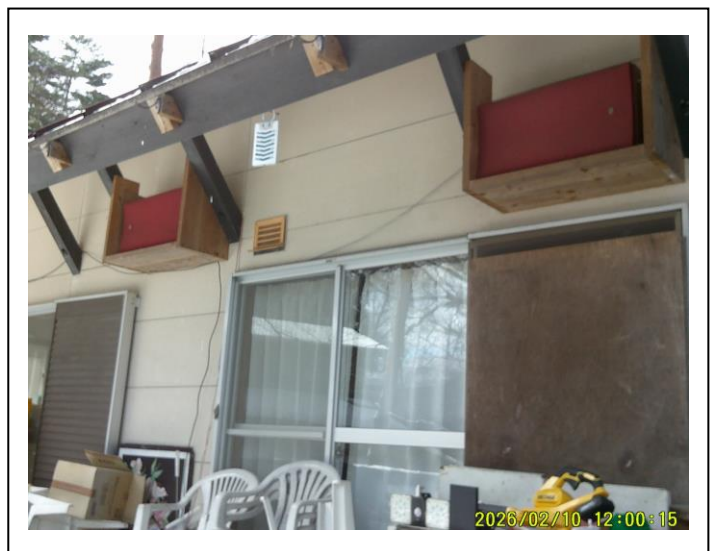
でも、牧場に夏が来て、おまえが帰って来るなら／それも、谷が静まり、白い雪に覆われたときでもよい、
陽の中でも、日陰でも私は待っている。／おお、ダニー・ボーイ、おまえがいなくて淋しくてたまらない。

でも、もしおまえが帰るのが、花がみんな枯れてからだったら／もしかしたら、いえ、きっと私は死んでいる。
おまえは私の眠っているところを見つける。／そしてひざまずき、私のため最後の祈りをしてくれる。

私には聞こえる私の上を静かにそっと歩いても、私の墓はより暖かく心地よい空気に包まれる
あなたはひざまずき言うのです、私を愛していると私は静かに眠り続けますあなたが帰ってくるその時まで

私がジャズを聴いていたのが高校生くらいからで、母からFMラジオを買ってもらってからで、当時は夜2Hの番組が、ジャズとクラシック交互に放送されていた。当時から歌を歌うのが苦手で、それでいて高校で音楽を選択してしまい、「コールユーブンゲン」で歌は駄目になりました。楽器として「ギター」を買ってもらって、当時はやった“禁じられた遊び”をひけるよう頑張った記憶がある。トレモロ奏法も。演奏も余り身が入らず中途半端で投げ出した、それでも音楽を聴く事が好きだったので、毎晩聞いていた。

社会人になって、新築の県営並柳団地の5階に



抽選に当たり、引っ越した。部屋はコンクリートで仕切られていたので、余り音を気にしないで済んだので、ここからオーディオにはまり出し、中町のオーディオの視聴室に通い、気に入った「ビクターのシステム」を買いました。30 歳になって家を建て引っ越しをするまでの数年間は、システムの拡張とレコードを多く買ったり、ジャズコンサートに行ったりして、かなり使った。

私の選んだ、ビクターのスピーカーは、クラシックにはいいのだがジャズには何か足りない気がして、もう 1 組スピーカー（パイオニア？）を探して 2 組のスピーカーで調整していた。社会人に成りたてもあり、オーディオの世界は、上のシステムには限りがない状態を感じていたが、特に「オープンリールデッキ」が欲しくてもなかなか買えず、妥協して中古でかつ最大 10 号リールから 7 号リール（直径 18cm 弱）に落として手に入れた。録音はもっぱら FM 放送の 2 時間番組であった事もあり、中古で買った「TEAC A-2010」の 1960 年代のオープンデッキの録音スピードが 3 チャンネルあり、一番遅い 4.8cm/s で行っていたため、故障して回らなくなったデッキとなって、7 号テープ 2 時間のテープが数多く聞けずにある。この遅いスピードのあるデッキは、1970 年以降なさそうで、困っている。



現在、ビクターのスピーカーは健在で、隣の別宅に作ったウッドデッキで聞けるように、前ページ写真のように、軒下に吊るして聞いている。もう一組のスピーカーは、大音量で酷使したせいか、ウーファー（低音域を受け持つスピーカー）がやぶれて使えなく、アンプも壊れて、今は、友達から借りている、CD が扱いやすいのでレコードも倉庫にしまいこんでいて、もっぱら CD を友達から借りている CD プレイヤーを使って聞いている。「ジャズ」と「クラシック」を聞いているが、ジャズの CD は、何年か前に、BLUE NOTES と称して毎月 1 回刊行の雑誌に 1 枚ずつ CD がついてくるのがあり、84 号くらいまで買っていた。今はそれを聞いているが、若い時にはひまさえあれば聞いていたのが、あまり聞かなくなっていて、ようやく数年前から、又少しずつ聞くようになった。84 号まで一通り聞きたいと思っていますが、なかなか進まない。

ジャズコンサートは、いろいろ聞きにいったが、印象に強いのが、六九町の女鳥羽川沿いにあった「凡蔵」でのピアノ本田竹広のトリオが二・三十人の観客とともに、乗りに乗ってなかなか夜遅くなくても終わらなかった事、駅前の東急イン（2025 年解体決定）での名前を忘れたがジャズギター演奏を、すぐ前で聞いてギターも好きになった事、テニスの仲間と一緒に何度か「斑尾ジャズ」に行って、長い時間寝そべってビールを飲んで聞いていた事など思い出す。

ジャズは、娘（ドラム）も孫（トランペット）も好きなようで、大学の時にジャズバンドをやっている。

【付録】斑尾ジャズフェスティバル

斑尾ジャズフェスティバルの前身は、1982 年に長野県斑尾高原で開催された「ニューポート・ジャズ・フェスティバル・イン・斑尾」です。これは斑尾高原スキー場の開業 10 周年を記念して、地元のペンション経営者らが構想し、ジョージ・ウェインを招いて実現した野外ジャズイベントでした。スキー場のゲレンデを観客席にし、ビールを飲みながらジャムセッションを楽しむスタイルが特徴で、自然の中で音楽を楽しむ新しいフェスの形を日本に定着させました。1982 年～1991 年バドワイザーがスポンサーで 5 日間の大規模な野外フェスで人気、1992・3 年はスポンサーが日本通運に変わり 3 日間になった。1995 年～1997 年休止、1998 年～2003 年はシティバンクのスポンサーで復活。2003 年に終了。2007 年以降は、「斑尾ジャズ」としての継承、演奏者と観客の交流を重視し、社会人バンドを中心に野外ジャズフェスティバルとして発展しています。現在ではメインステージとテラスステージの 2 箇所で開催無料の演奏が行われ、地域文化との結びつきや交流イベントも特徴です。

歳時記ホームはこちら <http://www.go.tvm.ne.jp/~sawada/saijiki/saijikihome.htm>